

令和5年度（2023年度）第2回八王子市環境推進会議 意見一覧

No.	資料	ページ番号等	意見・コメントなど
1	1-1	15	「河川のBOD環境基準達成率」が現状値100%を維持することが目標とされているが、100%以下となる要因をどのように想定しており、維持するためにどんな方策を講ずるとしているのか。環境省の定める河川の水質基準5項目のうち、A類型を未だ満たしていないのは大腸菌数であり、成果指標をBODから大腸菌数に変更するのが望まれる。
2	1-1	15	「環境に関する講座・講演への参加者数」が現状値 32,194人/年とされているが、どのような講座・講演への参加者数を積算しているのか。2033年に年35,000人と目標を立てているが、参加人数に比べて教育の内容の深さについても考えておくべきである。
3	1-2	10	「年平均気温は、直近30年間で0.8℃上昇」とあるが、気象庁が公開している八王子アメダスの過去の気象データでは昇温率は0.0342℃/年となり、30年での昇温は1.0℃と、0.8℃より大きい。
4	1-2	13	コゲラやアオゲラはキツツキであり、シジュウカラやヤマガラがカラ類である。
5	1-2	18	河川では2008年以降全地点で環境基準（BOD75%水質値）を満たしているとの記載があるが、環境省の規定している「生活環境の保全に関する環境基準（河川）」にはBODのほかpH、SS、DO、大腸菌数の4項目がある。大腸菌数はその値が大きく変動するものの、長期的には改善傾向がみられるため、改善努力を評価するのに適当な指標である。
6	1-2	21	牧野富太郎博士ほか何名かの名前が博士、氏の尊称付きで載っている。この尊称は削除したほうがよい。
7	1-2	21	高尾山の特質について、21ページでは「高尾山は温暖両帯の境界に位置し」となっているが、27ページでは「冷温帯と暖温帯の境界に位置している」となっている。後者に統一すべきである。
8	1-2	21	「古くから神域として保護され」とあるが、修験道とも結びついた仏教寺院が高尾山では大きいので「古くから寺社の聖域として保護され」とされてはどうか。
9	1-2	23	八王子の各所が生態系サービスの4つのサービスのいずれで特徴づけられるかが記載されているが、長池公園・多摩丘陵（由木地区）の重要里地里山についてどのカテゴリーかが記されていない。また調整サービスがいずれのところにも記されていない。
10	1-2	24	「ムササビやヤマネなどの樹上性の小動物」とあるが、「樹上棲（あるいは樹上生）」とするほうが適切である。
11	1-2	24	調整サービスとして森林の二酸化炭素吸収が説明されているが、バイオマスとして燃焼させたり、あるいは林のなかで菌や細菌により木を朽ちさせてしまう（生物学的酸化）ことがあれば再び二酸化炭素に戻るの、材として利用するか木炭にして貯蔵することが必要であることをいずれかの場所で付記しておく必要がある。

12	1-2	27	植物、哺乳類、鳥類、昆虫があげられているのに 爬虫類・両生類については触れられていない。そこで、「高尾山が重要な生息地となっている種もタゴガエルなど複数知られており」と両生類を加えてはどうか。
13	1-2	36	CCSやCCUSが説明されているが、菌やバクテリアに酸化されない木炭やバイオ炭を土中に貯蔵、鋤き込み、土壌を改良しながら温暖化対策にもするという八王子ならではの構想を展開するのがよい。
14	1-2	38. 40	自然共生サイトの認定が令和5年から開始されたとあるが、長池公園がそのうちの1つとして国から認定されていることを紹介してはどうか。
15	1-2	50	well-beingやNbSという英語の術語や略語があるが、適切な日本語とするか翻訳を添えるべきである。
16	1-2	52	人と自然が共生できる社会をつくるのが基本理念であると述べられているが、「人と自然が相利共生できる社会」とされてはどうか。
17	1-2	68	外来種を入れない周知啓発を関係する課が行うとしているのに、他水域のウグイを浅川に放流しているのはこの取組に反するので、環境基本計画ではなく、産業振興関連箇所への記述とすべきである。
18	1-2	72	市内の太陽光発電設備の発電容量の現状値および2033年度目標値が示されているが、現状での市内のエネルギー消費量に対してどれほどの割合であるのかを説明しておくとうよい。
19	1-2	74	木質ペレットストーブの導入促進があるが、大規模に導入されたときには窒素酸化物など公害ガスの排出が石炭ストーブと同じように発生するリスクを評価しておくべきである。
20	1-2	76	緑化による暑さ軽減が述べられているが、建造物の屋根などの太陽光反射率を高める方策も加えるとよい。
21	1-2	82	木材の利用促進は地産地消ばかりでなく、植物が吸収した二酸化炭素をそのまま貯蔵してカーボン・ネガティブとする効果もあることも述べるべきである。
22	1-2	92	環境教育・環境学習の充実について、八王子市ではカイコ飼育に取り組む小学校が多く、昆虫を苦手とする人が多い中、カイコは家畜で野生動物ではないが、その1歩手前の昆虫に親しむ学習としても優れた教材と思う。飼育を始める前に、カイコの幼虫を児童の手のひらにのせる経験をさせると、昆虫に対する心理的バリアが下がって、親しみを持って飼育できるようになる。
23	1-2	101	中央地区環境市民会議の活動として「魚の放流」が記載されているが、他水系のウグイを放流しており、生物多様性の保全に配慮する日本魚類学会の放流のガイドラインにははたがっていないようであり、生物多様性地域戦略の中にふくめるのは不適切ではないか。環境基本計画ではなく、産業振興関連箇所への記述とすべきである。

24		その他	環境推進市民委員として会議に参加して、川的环境に良い事は何か考えるようになった。料理後、フライパンを紙で拭いてからお湯で流せば洗剤がいらぬ。お皿も紙で拭くと少量の洗剤で洗えて、さっぱり仕上がる。市民の中には、アイデアを見つけたり実践している方が沢山いると思う。
25		その他	川の上流や里山整備は、害獣予防や下流への水害予防になるので、数年前の様に、木が流れて橋が破損することも防げるかもしれない。 また、質の良い土地に生えた安全な草を「山羊」に食べてもらえたら環境アピールになる。
26		その他	10年後に目標達成するにはもっと仕掛けが必要ではないかと思った。 アラブ首長国連邦、アブダビでは、温度も湿度も日本よりはるかに高い砂漠の国で日射遮蔽を徹底したピロティの半屋外空間ほか、対策が考えられている。 環境共生都市をめざしているアブダビの取組は参考になるのではないか。

※いただいたご意見の概略のみを掲載しています。なお、いただいたご意見は計画策定の参考にさせていただくとともに、必要に応じて計画に反映いたします。